発 行 所
アミューズメント通信社
大阪市北区神山町14（第2松栄ビル）
〒530 ☎ 06 (314) 0309
郵便振替 大阪307852
年間購読料（送料共）4,800円

試練に終始した'75年

正しい方法でのみ機械ゲーム分野は発展

報知新聞（東京版）にみる——誤解されやすいゲーム場

スポーツ紙「報知新聞」（東京版）十一月十三日付は、"カジノゲーム"を掲載、最近は停滞気味だと論じている。メダルゲームがヤングに飽きられつつある、と言うわけだが、よそ目にはどうもゲーム場は誤解される傾向にある。

「停滞」「移り気ヤング業界ブルブル」などの大きな見出しで、「盛り場に出現したカジノが、早くも曲がり角にさしかかっている」と書き出し、延々九段も論じているわけだが、金品との交換がないメダルゲームがなぜ"大当り"したのか、いぜんとして同紙は理解できていない。スロットを"改造"、オリンピアなど風俗営業への"変身"を夢想し、"変身"ができないのは改造費が高くつくからだ、と論じるあたりにその傾向は著しい。金品との交換が客を集めるのではなく、ゲーム場のゲームそれ自体が商品であり客を集めるのであり、商品＝ゲームを買いに客が集まるところに、メダルゲーム場の根拠があることが同紙には理解できないようだ。

停滞
カジノゲーム
移り気ヤング業界ブルブル
頭の痛い防犯体制
新機種の開発

そこで「停滞」を打破するには「新機種の開発」しかないとするわけだが、むしろこの一年間ではっきりしたことは、機械さえ置いておけば勝手に客がつくという考えが間違いであるということだろう。たしかに機械さえ良ければ放っておいても客はつくだろう。しかし、そういう客は二度とその機械に近づかないのも事実だ。機械を媒介にゲームを売る、それをトータルに進めるサービスが必要だとする正しい営業だけが着実に発展する——そういうことを示したのがこの一年間であった。

次号予告 新春特集号

小社の設立以来、早くも六カ月という月日が過ぎました。"健全な業界、正しい情報伝達"をモットーに微力ながらここまで到達できましたことに、読者ならびに関係者のみなさまに心よりお礼申し上げます。

来年は一層楽しい業界でありますように——との観点から、次号は新春特集号として、業界名士による新年展望、その他新しい年にちなんだ楽しい増頁特集号を予定しております。ご期待下さい。

論潮 甘い考えを追放

昭和五十年もあと数日を残すのみとなった。思えば実に試練に満ちた年であったし、昨年のことを考えればなんとも安らかな年の暮れである。

昨年はメダルゲームの脱線が拡大し、それはゲーム機によるとばくゲーム場を生み出すに至り、今年二月をピークとする全国いっせい取締り強化となった。警察当局によるこの適切な措置により、とばくゲーム場は一掃され、アミューズメント本来の姿をとり戻すに至ったわけである。

そのさい業界にとってはっきりしたことは、とばくゲーム場は決して儲からないことであり、存在することすらできない、ということであった。それまでは、なんとなくうまく行ってボロ儲けできるのじゃないか、という甘い考えがあったわけだ。

甘い考え、それは実に危険な考えでもあった。

危険な考えのおかげで多くの人が、故意過失を問わず犯罪者扱いを受けたし、多くの部外者までもがおびただしい迷惑を受けた。業界人はすでにこういった事態を阻止することができなかったし、もともと組織力は脆弱なままだった。そして警察当局の力によって、ようやく正常化されたわけであった。

なんとも苦い事態であった。これこそ業界の汚点と言わずしてなんと言えばよいであろうか。汚点は決してかくしきれるものではない。原因をつきとめ、二度と業界を不安に陥らせることをしないように、姿勢を正しつづけねば、どんなひどい事態に見舞われることかわからないのである。

甘い、危険な考えがある一方では、しかし、それと正反対の考えもあるのである。それはメダルゲームの正道を貫き、着実に発展してきている。すでにメダルゲーム場は定着しきっており、機械ゲーム人口は着々と増加しつつあるわけだ。

古人も言ったように、不安の夜は決して大人なら作っちゃいけないのである。いい教訓であった、と謙虚に反省し、来年へと展望を切り開くことが望まれる次第だ。

新会社設立

㈱ワールドリース＝札幌市中央区南六条西三丁目、セントラルコーポ九〇一号、☎〇一一（五二一）五三七七。

訂正

第36号（十一月十五日号）で、レジャーエンタプライズ㈱を「事務所移転」としましたが、正しくは「新会社設立」です。同じ社名の次の会社は従来通りです。

レジャーエンタプライズ㈱＝尼崎市杭瀬字二の坪三十の六、☎〇六－四八八－六四六四、浜崎巖社長。

ロンドンショー

ATE 1月27日～29日

国際的娯楽機展に日本製品も

日本のAMショー、米国のMOAショーにつづき、イギリスはロンドンで毎年開かれる娯楽機械展ATE（アミューズメント・トレーズ・エギジビション）。来年は一月二十七日から三日間、ロンドンにあるアレキサンドラ・パレスで開かれる。

ATEはこれで第32回になるが、今年一月の分では会場のスペースが出展希望スペースをまかなえず、とくに米国の業者から不満が多かった。それほど欧米各国から多種多様なゲーム機、娯楽機が出展されるわけで、日本からも任天堂、タイトーなどが今春参加し、かなりの成果をあげている。

来年一月のATEについては、それほど目立ったニュースはまだないが、早くも関西精機製作所のガンスモークなどが、出展されることになっている。

格安の見学旅行を小社で用意

毎回ATEは世界中から多くの見学者を集めており、とくに今年一月は日本からの見学者が目立ったと主催者側は述べている。なお、ATEはMOAとはちがってコインマシン、メダルゲームマシンなども出展されるため、またヨーロッパ各国の情報も集中するため、文字通り世界最大のアミューズメントマシンショーとなる。

小社（アミューズメント通信社）では、見学者のための格安の方法を用意しているので、希望者は小社まで連絡されたい。

（内容）来年一月下旬、八日間。航空運賃、宿泊料、現地送迎代、朝食代などで合計三十万程度。参加者の意向で内容と決めていく、ということで、小社の営利事業ではありません。

英国クロンプトン社製ダブルフォールズ

年末年始休業のお知らせ

誠に勝手ながら十二月二十七日より一月四日まで年末年始の休業といたします。おそれいりますが、ご了解下さい。

アミューズメント通信社

機械ゲームはニヒルの極致？

平凡パンチ

「平凡パンチ」では「男の言い分・女の言い分」を連載中だが、十二月八日号では『ゲームマシンに熱中する男』をテーマにしている。

そこで「男」は〝あれ、ニヒルの極致、真の男の姿……〟だとして擁護するのに対し、「女」は〝あの熱中ぶりには、ファッションのにおいがあるワ〟といささか論難気味。だが結局は、ゲームセンターで遊ぶのはイイコトダと言っているみたい。

「大阪メダルゲーム協同組合」解散

「大阪メダルゲーム協同組合」は十一月十日の緊急臨時総会により解散を決定、同二十八日付で正式に解散した（解散時点での加盟数四十四店舗）。なお今後も親睦団体的な活動を続けていく見込みである。

訂正

第36号（十一月十五日号）の「話題のマシン」で、「ガンスモーク」の定価、正しくは五十六万円です。読者ならびに関係者のみなさまにお詫びします。

海外報告

九月までの第三期

バリー社決算

バリー・マニュファクチュアリング・コーポレーションは、今年度第三の四半期と、今年九月三十日までの、九カ月分についての歳入と純利益を報告した。

今年度第三期の歳入合計は四千三百万九千ドル、純利益は百一万五千ドルで、株あたりの純利益は十八セントであった。これは、昨年一期分の三千六百二十六万二千ドルの歳入合計、純利益三百十万九千ドル、そして株あたりの純利益五十七セントに匹敵するものである。

一九七五年九月三十日までの九カ月間の、歳入合計は、一億二千八百八十四万五千ドル）昨年度一億千五百四十二万八千ドル）、純利益が六百四十万一千ドル（同千二十六万一千ドル）で、株あたりの純利益は、一ドル十五セント（同一ドル八十八セント）。

バリー社の社長、ウィリアム・T・オダネル氏は、「今年第三期の業績は、プエルトリコ政府のスロットマシン買上げで、特に注文の多かった昨年の三カ月間に匹敵している。だが、かわせ相場による損失や、外国のある在庫品の価格下落、そしてこ数カ月間にわたっての、アメリカドルの上昇による外国通貨の落ち込みなどで、たいへんな不振であったともいえる。」と述べているとのこと。

第13回 AMショー

来場者名簿を発売

（1部 1,000円）

全日本遊園協会

さきほど開かれた第十三回アミューズメントマシンショーの来場者名簿が、このほど全日本遊園協会から発売されることになった。この名簿は同ショーの見学等に来た人や企業名（住所、電話番号）などを網羅しており、とても重宝なもの。

毎回ショーのあとに出る名簿だが、今回はとくに表紙もデザインされ、中身も六十六ページ。企業名のダブリなどは今回なくなった。同協会の会員に配布され、残部を希望者に頒布することになっており、頒価千円（送料共）。申込先は次のとおり。

全日本遊園協会＝東京都渋谷区渋谷三の六の十八、荻津ビル、☎〇三－四〇七－八七一一。書名は「第十三回アミューズメントマシンショー来場者名簿」。

メダルゲームの底流

特別連載　第９回

一心生

年の瀬になると、じゃいもないという事に相成り、私は家内にぶつくさ言われて茶をすすっております。時にはこうした俗悪なる日常性から、しばし何処かへと逃走を試みたいものと恒日頃、心掛けてはおりますが、なかなかこのしがらみというものは、此の世のならいとやらにと思うに任せず、ついつい年が明けるというものです。もうこうした年の瀬を何度も何度も繰り返したように思いますが、いつの場合も痛痕の気持と共に新春を迎え、今年こそはと心に誓うにもかかわらず、どうも思い通りにはゆきません。家内は家内とて、この世のままならぬ慣わしに、そのモラルの不可解さに腹を立てて、車のクラクションほどの子供のわめき声に負けてはならじ――。かくて、この世は平和であるというものです。ああ平和とは何んとも気骨の折れるもののようではあります。でも、年に一度ぐらいは、一つの区切りとして、過ぎ去った一年を振り返り、評価すべき事柄と、反省する点を腑分けして、来年一年の指針とするのも、大いに益の在る事とて、そんな一時をば持ちたいものと思います。

前項で、メダルゲーム場の商品領域と、経営者の姿勢との関係について、少しく考えた。すなわちゲームを商品として的確な性格付けを図ることから、ゲーム場はその場限りの一時的なファッション商売ではなく、限りなく展開し続けられるものとなった。同時にそれは、とりもなおさず、経営者の取り組み姿勢いかんによるべきものであった。すでにお気付きの事と思うが、ゲーム場の経営、運営方法は決してたやすい、安易なものではない、という事をそれは示唆している。一時的な成功、儲かる事は可能であったとしても、刻々変化する環境とかニーズに、絶えず対応し続ける事は、商売の種類を問わず決してたやすいものではない。

この事は、商売が、たとえどのようなものであっても、最終的に完成〔あるいは完結と呼ぶべきかも知れない〕する事は決してないという本質を示している。もうこれで良い、とか、将来もこれ以上にはならない、という事は決してないのである。たとえそれがゲーム場の経営であっても、あるいはレジャー産業という新しい分野の商売であっても、例外はないのである。すべての分野にこの側面は共通する真実であろう。真面目な人が少ないとか、大会社が少ないとか、業界自体が特殊であるとか、こうしたあらゆる事情も、この点については通用しない。ただこれまでの私達の業界に、こうした事情を論拠に、なんらかの逃避的な論理が彷徨していたのではなかろうか、という疑念があるようだ。その論理は、しかし業界内の勝手な正統性を主張しているにすぎない、という見方が結局正しいように思う。

レジャー産業の背景

歴史は科学だと言われる。また、宿命論的な表現もよくされる。更に、気紛れで情緒的だとも言われる。こうした歴史に対する考え方は、それぞれに正しい面もあろうし、不充分な点もある。しかし、歴史がどう促えられようと、現象的には絶えず変転する運動としての形態が、私達の眼の前に展開されているにすぎない。その一つ一つ個々の事象を見れば、それ自体としては矛盾だらけであり、非科学的に映ずる面も多々見られる。しかし、連続する場の流れは、明らかに運動そのものである。歴史を運動と促えた思想家は数多い。イオニアのヘラクレイトスをはじめとし、我国でも、「方丈記」の鴨長明、「徒然草」の吉田兼好、松尾芭蕉など、世の移り変わり、歴史を、絶えず流転し、変容する運動と見做し、その移り行きに関わる人の一生の微小さを大自然に対置し、そのか細き美しさを唱い上げている。

現代、人類の所有する余りある「文明」という財産も、実にこの気の遠くなる歴史の一つ一つの場の連続を通して形成されて来たものである。今日の文明は、様々な発明や、発見、改良の賜物である。しかし、これらの発明や改良も決して突発的に為された事ではない。与えられた歴史の情況の場に根ざした積み重ねであり、それ自体、実に秩序正しく位置づける事ができる。そうした意味からも、今日の「レジャー」が産業として成り立つようになるまでの歴史的背景は、単に一時的な気紛れではないし、蓄積された富と思想の弁証法である。まさに、現代ならではの産業である所以である。

レジャー産業の誕生の背景は、近代産業革命を契機とし、近代資本主義経済形態が成立し、急速に富の集約化が展開されて以降、初めてその素地が形成された。それまでの人間にとって、時間は、あらゆる意味で、価値の創造＝生産にのみ費されてきた。人間の本性に根ざす志向であるわけで、その志向こそが正当で、今日文明の繁栄を保証する鍵であった。この事は、人類が恒に不足〔決して充たされる状態がないという事に等しいわけだが〕し続けてきたという歴史的事実の明しでもあった。繁栄と不足の並行拡大〔こういう言葉があるかどうか〕の連続であった。この生産と消費のバランスが恒に適切であったかどうかは疑問である。社会主義国のように、計面経済がほぼ全面的に統制されていてすら、種々の事情で崩れる事は、一つ大不作による食糧不足を見れば明らかであるが、自由主義経済下にあってもそれは、言うに及ばない。このアンバランスの解決案は、ある時は戦争に依存するケースが多々見られた。しかし、大方の見方は、二十世紀後半に至り、その経済的繁栄は一応、極に到達し、生産の恒常的優位性によるアンバランスは、ほぼ確立されたと言われている。たとえば、我国で今日、全国民が百年前の勤勉さで現代の生産設備をフル活動させて生産に従事したとすれば、たちどころに日本は余り在る生産品で埋め尽されることであろう。

生活時間の過半数を占めていた生産労働への従事の比率は、かような次第で退潮し、今世紀後半の人類の関心は、代りに台頭した生産労働時間以外の残余時間を、いかにすべきかという方向へ向けられた。むしろ、それは単なる関心に留まらず、重大問題に発展しつつある。そして「レジャー産業」なるものがクローズアップされる。

生産労働に従事しない人は、何も今世紀に初めて登場したわけではない。大昔から、人より富める者、他の人から収奪する支配者層はいた。また、一般庶民と言えども、時折りそうした情況にある事もあった。遊びやゲームや、そして快楽は、そういうわけで大古より

り存在していたのである。それ自体目新しい出来事ではない。しかし、産業として見る時、こうした事柄は意味あいが異なる。少なくとも一定レベルの人達が絶えず対象として普遍的に存在する、つまり需要が前提条件となる。特定の人が対象であったり、特定の技術者が不可欠であるという場合、それらは産業にまで成長しない。たとえばコンピューターも産業と呼ばれるようになったのはごく最近で、ひとわたり、IBMの席巻が終って以降で、昭和二十年代には特殊な事業であった。コンピューターが一般化され、どのような企業にも手軽に使えるように、また、値段も比較的安くなるように改良され、大量に作られて初めて現実的な産業化が始まった、と見るべきであろう。従って「レジャー産業」も、一般庶民が対象で〔何故なら、歴史的に、残余時間をいかに処分すべきかという問題を抱えているのは新たに登場した大衆であり、それ以外の人達を対象とした施設や事業は従前より存在していたからである〕、そうした一般庶民の需要を充たす形のものでなくては産業としての資質に欠ける事になる。

娯楽にお金を払う？

レジャーは、反生産的消費である事が絶対条件である。生産をやめ消費するわけだから、その対価はダブルである。大いに高価である。この点については、時間のみならず、一般庶民の消費能力のヴォリュームに大いに関わりがあろう。最近、我国の所得水準はヨーロッパのそれを追いこしたと言われている。昭和三十年代後半よりの急速な高度成長経済施策を経て以来のことである。真の意味で、我国にレジャーが産業化される素地ができたのは、GMP世界第何位という事が言われるようになってからである。時間と共に大衆の財布が豊かになって以来である。第二次大戦後の耐乏生活以来、大衆の欲求は、最初は、洗濯機とかテレビのような耐久消費材に集中し、次いで高級なぜいたく品〔自動車とかクーラー等〕に向き、最早見回してもさしたる欲しいものが見当たらなくなるまで買い続けてきた。というわけでいよいよレジャーである。即ち、買いたい品物がないという事は、物中心の物流経済のウェイトが低下して来る事を意味する。「レジャーは良いですね、これからの商売ですから」と度々言われる。確かに欲しい品物がもうなくなって、金と時間は暇つぶしに使われる。物中心から時間中心への移行である。まさにこれからの産業、バラ色である。「物中心から時間中心への移行は大いに結構、バラ色大賛成。しかし、欲しい物がもう無いという事は、物は忘れない、売れなければ作らない。所得水準を押し上げて来たのは、高度成長のはずだった一体レジャーに消費する金はどこから出て来るのかね。大体、今の不況からにして、物は動かず、金は動かず、レイオフ、倒産続発。一体誰が遊ぶ金払ってくれるのかね、キミ？」。「ええ！」

今年のJAAの「アミューズメントマシンショー」は実に盛大で、海外のショーに劣らず世界一の呼び声が高かった。このショーに、アンティークスロットマシンが展示されていた。現代スロットマシンの原型は一八九〇年代に作られたチャールス・フェイの回胴式スロット「リバティ・ベル」だと言われているが、ちょうど展示されていた機械は、一見時計風で、このフェイのスロットより更に古いものだそうで、まさに機械ゲームの原典と言えよう。超近代技術のICや、ミニコンピューターや、ヴィデオゲーム機と並んで、この前世紀のアンティークのひっそりとした展示を見た時、私は言い知れぬ気分を味わった。機械ゲームの先進国アメリカで、機械ゲームが産業として促えられたのは、ラスベガス以降であろうし、我国では、ほんのこの十年たらずではなかろうか。超近代ゲーム機と、この原典の対照的な展示は、まさに私が本項でくだくだと書き続けてきた論旨そのものだからである。

歴史的責任をこそ

テレビゲーム機が突然作られたわけではない。ICが偶然採用された訳でもない。十九世紀に、ひっそりと人知れず作られ、酒場とか、売春宿とか秘密めいた所でこっそり使われ、改良され、新しいモデルが作られ、様々な形へ分化し、そうした風雪を経て、今日のゲーム機が存在する。その歴史はわずか百年足らずであるかも知れないが、そこには決して完成するという事のない果てしない変転の運動が見られたはずである。こうした機械を作った人も、扱った人も、客も、まつわる全ての人達が恐らく、大衆の真只中で、大衆の悲喜こもごも、まさに底流とも呼ぶべき社会性を背負っていたに相違ない。だからこそ百年もの時間を経てなお、ますます大衆に密着した形でゲーム機が存立し得るのではないだろうか。アンティークは、百年近い時間を掛けて洗練され、改善され、工夫され、より優れたものへと変容し、分化してきた。それは、一部の人達が日蔭でこそこそ使っていた時代から、使われ方こそ違うが華やかなラスベガスで、あるいは日本の盛り場の一等地の大通りで、堂々と稼動する今、最も有望な産業、レジャーの一翼を担う者としてクローズアップされている。そして何より機械ゲームは、大衆に密着したものであり、大衆は今や、欲しい品物は買い尽し、余りある時間を何如にして過そうかという一大難問を抱えて悩んでいる。

百年近く機械ゲームが改良と工夫を加えられて来た事実を見る時、私達はその風雪の重さを思い計り、たずさわる者に与えられた時代的要請〔歴史的責任と呼ぶべきかも知れない〕を全うする必要がある。眼先の利益に促われて安閑としていてはいけない。どうすれば良質な娯楽を提供できるか、どう発展させて次の世代へ引き渡そうか、それは業界人全ての人の課題、決して完成する事のない課題である。

本年の御愛読を感謝致します。なお、今後とも御指導、御鞭撻のほど、宜敷くお願い申し上げます。来たる一年が発展の年でありますように。

（この項了。以下続）

本社カウンター直販システムもご利用ください。

BALLY PARTS SHOP

マックス・ブラザーズ

〒544 大阪市生野区巽北2丁目5番31号 TEL. 06(752)4775(代)

★パーツカタログ・プライスリスト等は当社までご請求下さい。

一台で両替機・メダル貸機に早替り!! HAPNES DERBY ジャガーX・V

値段は紙幣両替機の常識を破る七十八万円

- US25セントサイズ—1,000枚収容
- 100円玉—8,500枚収容
- 500円紙幣用もあります。

D—350mm
W—520mm
H—840mm
W—36kg

華麗なるファンファーレが響き、2周半の名馬競り合いは競馬場の臨場感そのもの連勝複式（15通）で最高5枚かけ

- H—1,170mm 巾—1,200mm 奥行—750mm

年末年始のゴールデンシーズンにはダービーマシンの最高峰—（イーブイアールレース）をぜひ設置ください

名馬5頭の疾走をカラーテレビで面現する

メダルゲームマシン

ＥＶＲダービーはカラーテレビを使って、名馬ハイセーコー、タケホープ、マーチス、シンザン、スピードシンボリらの迫真的レースを再現。音響効果も実況さながら、メダル方式で勝馬を当てるスリリングなマシーンです。メダルのペイアウトは、ホッパーシステムで迅速に払い戻しされます。２人用ディスペンサーユニットを組合わせるだけで何台でも設置できます。ほかに１人用もございます。

▼仕 様

●マスゲームマシン

寸法

本体部
W880%×700%×H1,480%
ディスペンサー（1台当り）
W880%×D420%×H925%

設置面積 10人用（5台セット）
（機械部分のみ）
最低2,880%×880%

ハーネスデラックス・20

仕 様 横巾1,920mm／奥行4,640mm／高さ2,060mm
電 源：100V／300W／50、60Hz
ゲーム人数：1人〜20人
プレー時間：60秒〜80秒
外 装：高級レザー張り

最高に稼ぐプライズマシン ゲームコーナーで人気沸騰

- 横巾／810mm 奥行／950mm 高さ／1,280mm

娯楽機械の総合商社 株式会社 ツ ム ラ

〒536 大阪市城東区諏訪2丁目7番3号 ☎06(969)3531(代)

代理店 名古屋ジュークサービス 〒464 名古屋市千種区鏡ケ池通3−6 ☎052(781)6380

ファッションNOW

賞ほど喧しいショウはない

紅白歌合戦とレコード大賞

ファッションNOWなんてコラムを書いたの、もうだいぶ前の事よね。ソオたしか暑中お見舞号だったな。なんやら中元と歳暮、盆暮ボンクラに顔を出すみたいな感じよね。読者の皆さん、お元気ですかあ? 訊いても答えぬナントヤラ…。

暮れとも言い師走とも呼ぶこのマンスに、何が話題になっているのか。

どうやらこうやら歌謡曲界における賞騒ぎが、イッチャンやかましいといえソォ。

大NHKの紅白歌合戦も賞と言えば言える訳。

当然出場してよいと考えられるような中条きよしとかいう人が出ないのよね。どうも大NHKに選ばれるかどうかによって、その歌手の日頃の行いが問われる形が出来あがったみたい。かわいそうに、離婚ひとつ安心して出来ないのだから、歌手もラクじゃないよね。

それにひきかえ、同じ番組から売り出した細川たかしは、「アタシ馬鹿ヨネ」とかなんとか言いながら出場するのだ。

「後指さされ」たのは細川さんじゃなく中条さんということよね。

アタシ馬鹿よね ところでアンタは

それにしても、歌詞のノッケカラ自分は馬鹿でありますす、と宣言するあたり、なかなかやるやるやるう、細川さん。

キャンディーズの女の子たちも、この紅白に出るらしいのだが、「黒は強いヨ」などと歌わず、「赤は強いヨ」とやらかせばオモロイのよね。

賞らしい賞といえば、例のレコード大賞。これがTV局主催で、その視聴率が好いので、ぼくもぼくもという訳にて、いまや賞だらけ。こうなると、だらけ切ってくるのよね。

歌謡大賞、サンプラザ音楽祭、FNS歌謡祭、新宿音楽祭とか横浜音楽祭なんてのもある。また有線放送大賞、別名〃夜のレコード大賞〃ちゅうのんもあるね。

これだけ沢山ありますというと、このクソ忙しい極月に、ええカゲンにしてくれと叫びたくなりますもんね。歌謡曲に順位つけて賞をやるというのは、お遊びといえばそれまでだが、どれがどれやら、歌謡曲ファンにも分らない有様なのだ。

いっそのこと、離婚歌手大賞など設けては? 比較的マシなのは、有線放送大賞だけど、これをもっとエスカレートさせて、「深夜放送大賞」など新設したらどうだろうか。案外イケンのでは。

深夜便トラックのドライバーが選ぶ歌謡大賞ということにすれば、一層オモシロクなるよね。

あるいは、「全国ジュークボックス大賞」なんていうのもウケルんじゃなかろうか。もうこうなったら、そこらじゅう賞だらけにして、レコードを出せば賞をいただけるという具合にすれば、かえって不公平もなく、大騒ぎもしなくなると考える訳よ。

喧しいような 静かなような…

文句ばかりつけてると気分もよろしくない。ここらで、当コラムの推せん盤をちーとばかり挙げてみようか。

この頃ハヤリのセット盤で、意外とよいモノが出ている。まず、『決定盤 美空ひばり全集』は5枚セットで、彼女の唄を聞けば、戦後三十年の日本歴史のおさらいにもなるみたい。

その他、昭和五十年をひと区切りとする考え方から『昭和の歌謡五十年史』（内山田洋とクールファイブ）が、四枚組で出ている。また、白秋や夢二などの歌がたくさん出てくる『ボニージャックスによる日本の抒情歌選集』は、五枚組。

歌謡曲じゃないけんどテレビ映画『刑事コジャック』の主演スター、テリー・サヴァラスが歌う『テリー』は、低音が心地よく響く余芸とは思えぬ拾いモノのディスクで有馬したよ。

まっ、コートの衿を立てて、うつむき加減に歩く年の瀬に、せめて歌ぐらい好きなヤツを思いっきりフリーに聞きたいものよね。

それはそうと、当節パチンコ屋で、有線放送がかかってないところは珍しいぐらいだが、これがもっと進んで、パチンコ台のそれぞれにイヤホーンがぶら下がっているのんがあるのよね。パチンコ台の上に、チャンネルのつまみもある。

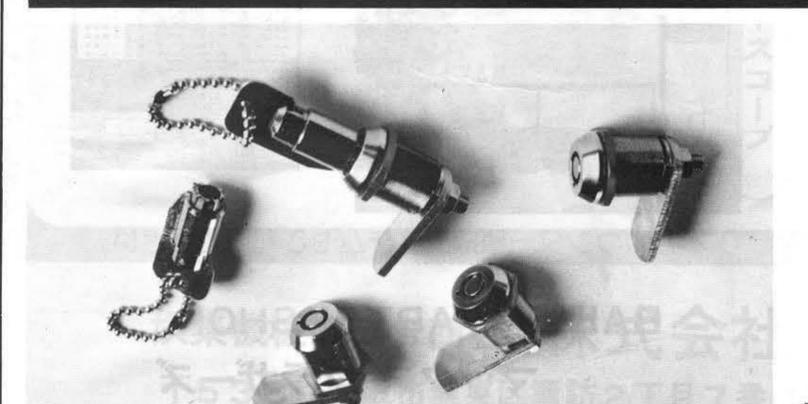
我を忘れて、ひたすらパチンコする耳に、自分ひとりの歌を聞く、喧しいような静かなような。

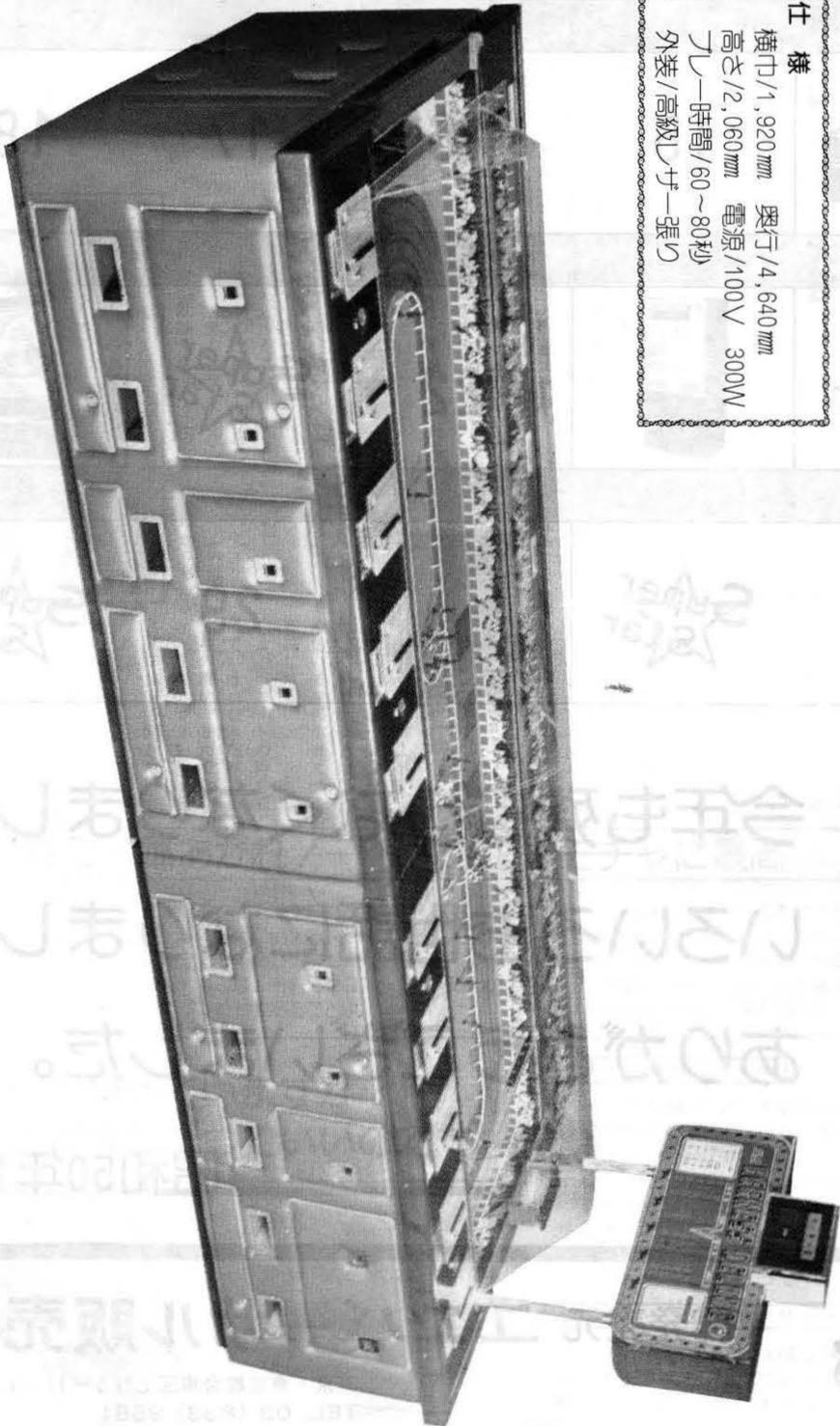
（Z）

ホントの噂 たこ！凧あがれ！——大人のオモチャに最高

スキー、スケートばかりが冬のおあそびじゃないのであって、昔なつかし凧上げなんてどうでありましょうや。アメリカからやってきたゲイラ・カイトなんていう、プラスチックの凧もある。まっすぐに力づよくあがる凧だが、あまりに現代的すぎて、面白味や素朴さがないんだな。

日本各地に伝えられる凧、南部だこ（青森）六角だこ（新潟）、トンビだこ（静岡）、はちだこ（愛知）などは、それぞれユニークで、味わいのある凧クンたちであることよ。

クソ寒い冬空に、風を受けて高く高く上がる凧を眺めあげれば、しばし幼少の頃を思い出し、なんとなしに心地よきものである。うるさくせがむ子供は、「ヨーシ、ヨシ」と適当にあしらって、糸をしっかり握って高く高く上げて楽しもう。

躍進するフジグループ　ハーネス・デラックス・20

仕　様
横巾/1,920㎜　奥行/4,640㎜
高さ/2,060㎜　電源/100V　300W
プレー時間/60～80秒
外装/高級レザー張り

お問い合わせ、お申し込みは

総発売元　フジ・エンタープライズ株式会社　東京都新宿区北新宿1-7-21 高沢ビル1F　〒160 ☎(03) 365－0611（大代表）

フジ・エンタープライズ㈱札幌支社　〒062　札幌市豊平区平岸2条3－71　☎(011)841－2087㈹
フジ・リース株式会社　〒151　東京都渋谷区本町5－37－12　☎(03) 378－4961㈹
城南プロンディ　〒144　東京都大田区東糀3-13-10第1三喜ハイツ　☎(03) 744－6641㈹
動産実業　〒020　盛岡市仙北町下野30　☎(0196)35－5627
株式会社山信　〒150　東京都渋谷区神南1－10－16（東亜ビル）　☎(03) 463－2500㈹
東海アミューズメント　〒467　名古屋市端穂区豊岡通3－48　☎(052)851－1319
バイタル商事株式会社　〒986-61　宮城県古川市福沼字富沼1－2　☎(02292)3－6711㈹
株式会社ガルフ　〒942　新潟県上越市大字藤巻865－1　☎(0255)23－6701㈹